

本資料のうち、枠囲みの
内容は商業機密の観点か
ら公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-補-E-19-0600-24_改0
提出年月日	2021年4月2日

補足-600-24 加振試験についての補足説明資料

2021年4月
東北電力株式会社

目次

1. 概要	1
2. 加振試験の概要	3
3. 機能維持加速度の設定について	72

添付-1 パワーセンタ, モータコントロールセンタ及び電源切替盤の模擬地震波について

1. 概要

耐震計算に用いる機能確認済加速度のうち、添付書類「VI-2-1-9 機能維持の基本方針」に示す動的機器の機能確認済加速度以外のものについては、メーカー等において確認している加振試験に基づく値を用いている。

本資料は、機能維持評価のうち、

- ・動的機能維持評価
- ・電氣的機能維持評価

に用いた機能確認済加速度を取得した、メーカー等において確認している加振試験の概要を補足説明するものである。

「2. 加振試験の概要」に、機能維持評価に用いた機能確認済加速度を取得した加振試験の概要（加振方法、入力波、加振振動数等）について示す。

「3. 機能維持評価用加速度の設定について」に、機能維持評価に用いた機能維持評価用加速度の機能確認済加速度を取得した加振試験の体系を踏まえた設定方法について示す。

なお、本資料以外で加振試験に関する説明を行っている補足説明資料を以下の表 1-1 に整理し、各補足説明資料にて説明を行っている加振試験の概要は本資料には含めない。

表 1-1 加振試験に関する補足説明資料リスト

資料番号	資料名	備考
補足-140-1	津波への配慮に関する説明書の補足説明資料	逆止弁付ファンネル
補足-220-1	発電用原子炉施設の溢水防護に関する補足説明資料	逆流防止装置
補足-600-16	制御棒の挿入性評価について	
補足-600-20	原子炉建屋ブローアウトパネル閉止装置の耐震性について	
補足-600-21	ガスタービン発電設備の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	
補足-600-22	高圧代替注水系タービンポンプの耐震性についての計算書に関する補足説明資料	
補足-600-23	可搬型重大事故等対処設備の耐震性に関する説明書に係る補足説明資料	車両型設備 その他
補足-600-25-2	地下水位低下設備の耐震性に係る補足説明資料	地下水位低下設備揚水ポンプ
補足-600-39-2	ケーブルトレイ消火設備のうち配管の加振試験について	
補足-600-40-32	遠隔手動弁操作設備の耐震性についての計算書に関する補足説明資料	

2. 加振試験の概要

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
使用済燃料プールの水位/温度 (ガイド パルス式)	VI-2-4-2-4	測温抵抗体 【A】	地震後の電氣的 機能	水平1方向と鉛 直の2方向同時 加振を水平2方 向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含むランダム 波を入力し、応答波形から共振点が □であることを確認。 2. ランダム波加振試験 試験用要求応答スペクトルを設定し、 これを包絡するランダム地震動を設定 して加振試験を行い、機能が維持され ることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
使用済燃料プールの水位/温度 (ヒート サーモ式)	VI-2-4-2-5	熱電対 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独2方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ □であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 (×9.8m/s ²)	判定基準
使用済燃料プールの監視カメラ	VI-2-4-4-1	可視光カメラ 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] (X 方向), [] (Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 共振周波数および共振周波数±1Hz に おける加振試験を行い、機能が維持さ れることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動 作すること。
		照明 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] (Y 方向), [] (X 方向), [] (Z 方 向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 共振周波数および共振周波数±1Hz に おける加振試験を行い、機能が維持さ れることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動 作すること。
		盤 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が 維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
原子炉隔離時冷却系ポンプ駆動用タービン入口蒸気圧力	VI-2-6-5-2-1-1	弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
高圧代替注水系ポンプ出口圧力	VI-2-6-5-2-1-2	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。
直流駆動低圧注水系ポンプ出口圧力	VI-2-6-5-2-1-3	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
代替循環冷却ポンプ出口圧力	VI-2-6-5-2-1-4	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
原子炉隔離時冷却系ポンプ出口圧力	VI-2-6-5-2-1-5	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
高圧炉心スプレイ系ポンプ出口圧力	VI-2-6-5-2-1-6	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
残留熱除去系ポンプ出口圧力	VI-2-6-5-2-1-7	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平□, 鉛直□における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
低圧炉心スプレイ系ポンプ出口圧力	VI-2-6-5-2-1-8	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平□, 鉛直□における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
復水移送ポンプ出口圧力	VI-2-6-5-2-1-9	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
残留熱除去系熱交換器入口温度	VI-2-6-5-2-2-1	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
残留熱除去系熱交換器出口温度	VI-2-6-5-2-2-2	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
原子炉冷却材浄化系入口流量	VI-2-6-5-2-3-1	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 []、鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
高圧代替注水系ポンプ出口流量	VI-2-6-5-2-3-2	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。
残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系ヘッドスプレイレイン洗浄流量)	VI-2-6-5-2-3-3	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。
残留熱除去系洗浄ライン流量 (残留熱除去系 B 系格納容器冷却ライン洗浄流量)	VI-2-6-5-2-3-4	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 (×9.8m/s ²)	判定基準
直流駆動低圧注水ポンプ出口流量	VI-2-6-5-2-3-5	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
代替循環冷却ポンプ出口流量	VI-2-6-5-2-3-6	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
原子炉隔離時冷却系ポンプ出口流量	VI-2-6-5-2-3-7	差圧式流量検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 []、鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	高圧炉心スプレイ系ポンプ出口流量	記載箇所	VI-2-6-5-2-3-8	評価部位 【加振試験 No.*1】	差圧式流量検出器 【A】	要求機能	地震後の電氣的機能	加振方向	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	試験内容*2	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2, *3 ($\times 9.8m/s^2$)	水平 : [] 鉛直 : []	判定基準	加振後に正常に動作すること。
設備	残留熱除去系ポンプ出口流量	記載箇所	VI-2-6-5-2-3-9	評価部位 【加振試験 No.*1】	差圧式流量検出器 【A】	要求機能	地震後の電氣的機能	加振方向	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	試験内容*2	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2, *3 ($\times 9.8m/s^2$)	水平 : [] 鉛直 : []	判定基準	加振後に正常に動作すること。
設備	低圧炉心スプレイ系ポンプ出口流量	記載箇所	VI-2-6-5-2-3-10	評価部位 【加振試験 No.*1】	差圧式流量検出器 【A】	要求機能	地震後の電氣的機能	加振方向	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	試験内容*2	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2, *3 ($\times 9.8m/s^2$)	水平 : [] 鉛直 : []	判定基準	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
原子炉圧力	VI-2-6-5-3-1-1	弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
原子炉圧力 (SA)	VI-2-6-5-3-1-2	弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
原子炉水位	VI-2-6-5-3-2-1	差圧式水位検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
原子炉水位 (広帯域)	VI-2-6-5-3-2-2	差圧式水位検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
原子炉水位 (燃料域)	VI-2-6-5-3-2-3	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 (×9.8m/s ²)	判定基準
原子炉水位 (SA 広帯域)	VI-2-6-5-3-2-4	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。
原子炉水位 (SA 燃料域)	VI-2-6-5-3-2-5	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。
ドライウエール圧力	VI-2-6-5-4-1-1	弾性圧力検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
ドライブウェル圧力 (続き)	VI-2-6-5-4-1-1	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を □入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平□, 鉛直□にお ける加振試験を行い、機能が維持され ることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動 作すること。
圧力抑制室圧力	VI-2-6-5-4-1-2	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を □入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平□, 鉛直□にお ける加振試験を行い、機能が維持され ることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動 作すること。
		弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を □入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
ドライウエルの温度	VI-2-6-5-4-2-1	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] (X 方向), [] (Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. サインペーパード波加振試験 共振点及び [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
圧力抑制室内空気温度	VI-2-6-5-4-2-2	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
		熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
サブレーションプール水温度	VI-2-6-5-4-2-3	測温抵抗体 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
原子炉格納容器下部温度	VI-2-6-5-4-2-4	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
格納容器内雰囲気酸素濃度	VI-2-6-5-4-3-1	熱磁気風式酸素検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
格納容器内水素濃度 (D/W)	VI-2-6-5-4-4-1	水素吸蔵材料式水素検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中に正常に動作すること。
格納容器内水素濃度 (S/C)	VI-2-6-5-4-4-2	水素吸蔵材料式水素検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
格納容器内雰囲気気水素濃度	VI-2-6-5-4-4-3	熱伝導率式水素検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
復水貯蔵タンク水位	VI-2-6-5-5-1	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
原子炉再循環ポンプ入口流量	VI-2-6-5-6-1	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
原子炉格納容器代替スプレイ流量	VI-2-6-5-7-1	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。
原子炉格納容器下部注水流量	VI-2-6-5-7-2	差圧式流量検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。
圧力抑制室水位	VI-2-6-5-8-1	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [] , 鉛直 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
圧力抑制室水位 (続き)	VI-2-6-5-8-1	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
原子炉格納容器下部水位	VI-2-6-5-8-2	電極式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
ドライウェル水位	VI-2-6-5-8-3	電極式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
原子炉建屋内水素濃度	VI-2-6-5-9-1	触媒式水素検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
		気体熱伝導式水素検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] (X, Y 方向), [] (Z 方向) であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] (X, Y 方向), [] (Z 方向) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
計測制御設備の盤	VI-2-6-7-1	盤内の器具 ・スイッチ ・継電器 ・指示計 ・記録計 ・電源装置 ・配線用遮断器 ・制御装置 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
衛星電話設備 (固定型) (中央制御室)	VI-2-6-7-2-1	電話機 【C】	地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 模擬地震波加振試験 基準地震動 (Ss-DI ~ Ss-N1) における設備評価用床応答曲線を上回るように設定した 模擬地震波での加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること。
衛星電話設備 (屋外アンテナ) (中央制御室)	VI-2-6-7-2-2	屋外アンテナ 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検査試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. サイバート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること。
衛星電話設備 (固定型) (緊急時対策所)	VI-2-6-7-2-3	電話機 【C】	地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 模擬地震波加振試験 基準地震動 (Ss-DI ~ Ss-N1) における設備評価用床応答曲線を上回るように設定した 模擬地震波での加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること。
衛星電話設備 (屋外アンテナ) (緊急時対策所)	VI-2-6-7-2-4	屋外アンテナ 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検査試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 <input type="text"/> であることを確認。 2. サイバート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
無線連絡設備 (固定型) (中央制御室)	VI-2-6-7-3-1	無線機 【C】	地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 模擬地震波加振試験 基準地震動 (Ss-DI ~ Ss-N1) における設備評価用床応答曲線を上回るように設定した 模擬地震波での加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること。
無線連絡設備 (屋外アンテナ) (中央制御室)	VI-2-6-7-3-2	屋外アンテナ 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検査試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> であることを確認。 2. サイバート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること。
無線連絡設備 (固定型) (緊急時対策所)	VI-2-6-7-3-3	無線機 【C】	地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 模擬地震波加振試験 基準地震動 (Ss-DI ~ Ss-N1) における設備評価用床応答曲線を上回るように設定した 模擬地震波での加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること。
無線連絡設備 (屋外アンテナ) (緊急時対策所)	VI-2-6-7-3-4	屋外アンテナ 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検査試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が入力し、 <input type="text"/> であることを確認。 2. サイバート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： <input type="text"/> 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	安全パラメータ表示システム (SPDS) SPDS 表示装置	記載箇所	VI-2-6-7-4	評価部位 【加振試験 No.*1】	ノート PC 【B】	要求機能	地震時及び地震後の電氣的機能	加振方向	3方向同時加振 水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	試験内容*2	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2、*3 ($\times 9.8m/s^2$)	水平 : [] 鉛直 : []	判定基準	加振中及び加振後に正常に動作すること。
設備	安全パラメータ表示システム (SPDS) 無線通信用アンテナ	記載箇所	VI-2-6-7-5	評価部位 無線通信用アンテナ 【B】	無線通信用アンテナ 【B】	要求機能	地震時及び地震後の電氣的機能	加振方向	水平単独2方向及び鉛直単独	試験内容*2	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2、*3 ($\times 9.8m/s^2$)	水平 : [] 鉛直 : []	判定基準	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 (×9.8m/s ²)	判定基準
統合原子力防災ネットワークを用いた 通信連絡設備	VI-2-6-7-6	IP 電話 (地上 系) 【C】	地震後の電氣的 機能	水平 1 方向と鉛 直の 2 方向同時 加振を水平 2 方 向に対して実施	1. 模擬地震波加振試験 基準地震動 (Ss-D1 ~ Ss-N1) における 設備評価用床応答曲線を上回るように 設定した 模擬地震波での加振試験を 行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動 作すること。
			地震後の電氣的 機能	水平 1 方向と鉛 直の 2 方向同時 加振を水平 2 方 向に対して実施	1. 模擬地震波加振試験 基準地震動 (Ss-D1 ~ Ss-N1) における 設備評価用床応答曲線を上回るように 設定した 模擬地震波での加振試験を 行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動 作すること。
		IP-FAX 【B】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動 作すること。
			地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動 作すること。
		テレビ会議シス テム 【B】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 <input type="text"/> の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が <input type="text"/> <input type="text"/> であることを確認。 2. サインビート波加振試験 <input type="text"/> における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： 鉛直： <input type="text"/>	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
統合原子力防災ネットワーク設備衛星 アンテナ	VI-2-6-7-7	ODU 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
統合原子力防災ネットワーク用通信機 器収容架	VI-2-6-7-8	L2SW (衛星用) 【B】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
		IDU 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
統合原子力防災ネットワーク用通信機 器収容架 (続き)	VI-2-6-7-8	ODU-INTFC-BOX 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動 作すること。
		L2SW 【B】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動 作すること。
		L3SW 【B】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
統合原子力防災ネットワーク用通信機器収容架 (続き)	VI-2-6-7-8	衛星ルータ 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
			地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。
		Vo.IP-GW 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
代替原子炉再循環ポンプトリップ遮断器	VI-2-6-7-9	盤内の器具 ・スイッチ 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
原子炉圧力容器温度	VI-2-6-7-10	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
フィルタ装置水位 (広帯域)	VI-2-6-7-11	差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
フィルタ装置入口圧力 (広帯域)	VI-2-6-7-12	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [], 鉛直 [] にお ける加振試験を行い, 機能が維持され ることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動 作すること。
フィルタ装置出口圧力 (広帯域)	VI-2-6-7-13	弾性圧力検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [], 鉛直 [] にお ける加振試験を行い, 機能が維持され ることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動 作すること。
フィルタ装置水温度	VI-2-6-7-14	熱電対 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
フィルタ装置出口水素濃度	VI-2-6-7-15	熱伝導率式水素 検出器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動 作すること。
原子炉補機冷却水系系統流量	VI-2-6-7-16	差圧式流量検出 器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [], 鉛直 [] にお ける加振試験を行い, 機能が維持され ることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
残留熱除去系熱交換器冷却水入口流量	VI-2-6-7-17	差圧式流量検出 器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平 [], 鉛直 [] にお ける加振試験を行い, 機能が維持され ることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
静的触媒式水素再結合装置監視装置	VI-2-6-7-18	熱電対 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振後に正常に動作すること。
主蒸気管放射線モニタ	VI-2-8-2-1-1-1	電離箱 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
格納容器内雰囲気放射線モニタ (D/W)	VI-2-8-2-1-2-1	電離箱 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
格納容器内雰囲気放射線モニタ (S/C)	VI-2-8-2-1-2- 2	電離箱 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
原子炉建屋原子炉棟排気放射線モニタ	VI-2-8-2-1-3- 1	半導体検出器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
フィルタ装置出口放射線モニタ	VI-2-8-2-1-3- 2	電離箱 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
燃料取替エリア放射線モニタ	VI-2-8-2-1-3-3	半導体検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が入力し、応答波形から共振点であることを確認。 2. 正弦波加振試験 における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直：	加振中及び加振後に正常に動作すること。
耐圧強化ベント系放射線モニタ	VI-2-8-2-1-3-4	電離箱 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が入力し、応答波形から共振点であることを確認。 2. 正弦波加振試験 における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直：	加振後に正常に動作すること。
使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (低線量)	VI-2-8-2-2-1-1	電離箱 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が入力し、応答波形から共振点であることを確認。 2. 正弦波加振試験 における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直：	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
使用済燃料プール上部空間放射線モニタ (高線量)	VI-2-8-2-2-1-2	電離箱 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
差圧計 (中央制御室待避所用)	VI-2-8-3-3-2	弾性型差圧検出器 【B】	地震後の機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
差圧計 (緊急時対策所用)	VI-2-8-3-4-2	弾性型差圧検出器 【A】	地震後の機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □(水平) 及び□(鉛直) における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
非常用ディーゼル発電設備 制御盤	VI-2-10-1-2-1-7	盤内の器具 ・ 継電器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□ *下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・ 配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・ 電磁接触器 ・ 継電器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・ 電力計 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
非常用ディーゼル発電設備 制御盤 (続き)	VI-2-10-1-2- 1-7	盤内の器具 ・周波数計 ・電圧計 ・指示計 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工 認記載値	加振後に正常に動 作すること。
			地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
			地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電設備 制御盤	VI-2-10-1-2- 2-7	盤内の器具 ・ 継電器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を □ 入力し、応答波形から共振点が □ □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □ *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
		盤内の器具・ 配線用遮断器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を □ 入力し、応答波形から共振点が □ □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
		盤内の器具 ・ 継電器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を □ 入力し、応答波形から共振点が □ □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
		盤内の器具 ・ 電力計 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を □ 入力し、応答波形から共振点が □ □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
高圧炉心スブレイ系デューゼル発電設備 制御盤 (続き)	VI-2-10-1-2- 2-7	盤内の器具 ・周波数計 ・電圧計 ・指示計 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工 認記載値	加振後に正常に動 作すること。
			地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
			地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機 能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
無停電交流電源用静止形無停電電源装置	VI-2-10-1-3-1-1	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
					1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
					1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	無停電交流電源用静止形無停電電源装置 (続き)	記載箇所	VI-2-10-1-3-1-1	評価部位 【加振試験 No.*1】	盤内の器具 ・ 継電器 ・ 電磁接触器 【A】	要求機能	地震時及び地震後の電氣的機能	加振方向	水平単独 2 方向及び鉛直単独	試験内容*2	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2, *3 ($\times 9.8m/s^2$)	水平: [] 鉛直: [] *下線部が工認記載値	判定基準	加振中及び加振後に正常に動作すること。
				評価部位 盤内の器具 ・ 電源 ・ 基板 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振中及び加振後に正常に動作すること。						

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
メタルクラッドスイッチギア (非常用)	VI-2-10-1-4-1	盤内の器具 ・ 継電器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□ *下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・ 配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・ 交流電流計 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平：□ 鉛直：□	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
メタルラッドスイッチギア (非常用) (続き)	VI-2-10-1-4-1	盤内の器具 ・電流計 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工 認記載値	加振後に正常に動作すること。
					1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること。
					1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
メタルラッドスイッチギア(高圧炉 心スプレイ系用)	VI-2-10-1-4-2	盤内の器具 ・ 継電器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を □入力し, 応答波形から共振点が□ □であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □ *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
		盤内の器具 ・ 配線用遮断器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を □入力し, 応答波形から共振点が□ □であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
		盤内の器具 ・ 交流電流計 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を □入力し, 応答波形から共振点が□ □であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
メタルラッドスイッチギア(高圧炉 心スプレイ系用)(続き)	VI-2-10-1-4-2	盤内の器具 ・電流計 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い, 機 能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] *下線部が工 認記載値	加振後に正常に動 作すること。
		盤内の器具 ・スイッチ 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い, 機 能が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: [] *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
		盤内の器具 ・タイマー ・スイッチ 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: [] 鉛直: []	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
パワーセンタ (非常用)	VI-2-10-1-4-3	パワーセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
モータコントロールセンタ (非常用)	VI-2-10-1-4-4	モータコントロールセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
モータコントロールセンタ (高圧炉心スプレイ系用)	VI-2-10-1-4-5	モータコントロールセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
460V 原子炉建屋交流電源切替盤 (非常用)	VI-2-10-1-4-8	切替盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
中央制御室 120V 交流分電盤 (非常用)	VI-2-10-1-4-9	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
ガスタービン発電機接続盤	VI-2-10-1-4-10	盤内の器具 ・スイッチ 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : □ 鉛直 : □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
メタルラッドスイッチギア (緊急用)	VI-2-10-1-4-11	盤内の器具 ・ 継電器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □ *下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・ 配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・ 交流電流計 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・ スイッチ 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
パワーセンタ (緊急用)	VI-2-10-1-4-13	パワーセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
モータコントロールセンタ (緊急用)	VI-2-10-1-4-14	モータコントロールセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
ガスタービン発電設備燃料移送ポンプ 接続盤	VI-2-10-1-4-15	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
460V 原子炉建屋交流電源切替盤 (緊急用)	VI-2-10-1-4-16	切替盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
120V 原子炉建屋交流電源切替盤 (緊急用)	VI-2-10-1-4-17	切替盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
中央制御室 120V 交流分電盤 (緊急用)	VI-2-10-1-4-18	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
メタルラッドスイッチギア (緊急時 対策所用)	VI-2-10-1-4- 19	盤内の器具 ・ 継電器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □ *下線部が工 認記載値	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
		盤内の器具 ・ 配線用遮断器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
		盤内の器具 ・ 交流電流計 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振後に正常に動 作すること。
		盤内の器具 ・ スイッチ 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が □ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平: □ 鉛直: □	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
モータコントロールセンタ(緊急時対策用)	VI-2-10-1-4-21	モータコントロールセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
105V 交流電源切替盤(緊急時対策用)	VI-2-10-1-4-22	切替盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
105V 交流分電盤(緊急時対策用)	VI-2-10-1-4-23	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
120V 交流分電盤 (緊急時対策所用)	VI-2-10-1-4- 24	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。
210V 交流分電盤 (緊急時対策所用)	VI-2-10-1-4- 25	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震 後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を 入力し, 応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い, 機能 が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後 に正常に動作する こと。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
125V 直流主母線盤 (緊急時対策所用)	VI-2-10-1-4-26	パワーセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		モータコントロールセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独2方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
125V 充電器 2A 及び 2B	VI-2-10-1-4-27	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
			地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること。
			地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	125V 直流主母線盤 2A 及び 2B	記載箇所 VI-2-10-1-4-28	評価部位 【加振試験 No.*1】 パーセンタ盤 【B】	要求機能 地震時及び地震後の電氣的機能	加振方向 水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	試験内容*2 1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2, *3 ($\times 9.8m/s^2$) 水平 : [] 鉛直 : []	判定基準 加振中及び加振後に正常に動作すること。
			モータコントロールセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	試験内容*2 1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平 : [] 鉛直 : []	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	125V 直流主母線盤 2A-1 及び 2B-1	記載箇所	VI-2-10-1-4-29	評価部位 【加振試験 No.*1】 パーセンタ盤 【B】	要求機能 地震時及び地震後の電氣的機能	加振方向 水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	試験内容*2 1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2、*3 ($\times 9.8m/s^2$) 水平： 鉛直：	判定基準 加振中及び加振後に正常に動作すること。
				モータコントロールセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	試験内容*2 1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が [] であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直：	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
125V 直流分電盤 2A-1, 2A-2, 2A-3, 2B-1, 2B-2 及び 2B-3	VI-2-10-1-4-30	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □ における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
125V 直流電源切替盤 2A 及び 2B	VI-2-10-1-4-31	切替盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
125V 直流 RCIC モーターコントロールユニット	VI-2-10-1-4-32	モーターコントロール盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □ の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2、*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
125V 充電器 2H	VI-2-10-1-4-33	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・切替スイッチ 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・指示計 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること。
		盤内の器具 ・制御装置 ・継電器 ・センサ ・スイッチ ・電磁接触器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
125V 直流主母線盤 2H	VI-2-10-1-4-34	パワーセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
125V 直流分電盤 2H	VI-2-10-1-4-35	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平 1 方向と鉛直の 2 方向同時加振を水平 2 方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
125V 直流分電盤 2H	VI-2-10-1-4-35	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
125V 代替充電器	VI-2-10-1-4-36	盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： []	加振中及び加振後に正常に動作すること。
			地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること。
			地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所 VI-2-10-1-4-37	評価部位 【加振試験 No.*1】 盤内の器具 ・配線用遮断器 【A】	要求機能 地震時及び地震後の電氣的機能	加振方向 水平単独 2 方向及び鉛直単独	試験内容*2 1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$) 水平： [] 鉛直： []	判定基準 加振中及び加振後に正常に動作すること。
			地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振後に正常に動作すること。
			地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 [] の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点 [] であることを確認。 2. 正弦波加振試験 [] における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： [] 鉛直： [] *下線部が工認記載値	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
250V 直流主母線盤	VI-2-10-1-4-38	パワーセンタ盤 【B】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平1方向と鉛直の2方向同時加振を水平2方向に対して実施	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
					1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
					1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 模擬地震波加振試験*4 模擬地震波による加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
津波監視カメラ	VI-2-10-2-13-1	監視カメラ 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
取水ビット水位計	VI-2-10-2-13-2	津波監視設備制御盤 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
		差圧式水位検出器 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
地下水位低下設備水位計	VI-2-13-8	圧力式水位検出器 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. サイン波試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
地下水位低下設備制御盤	VI-2-13-9	盤内の器具 ・ 演算装置 ・ VDU ・ 電源装置 【A】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
地下水位低下設備電源盤	VI-2-13-10	盤内の器具 ・ 配線用遮断器 ・ 無停電電源装置 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
火災感知器	VI-2-別添 1-2	熱感知器 煙感知器 防水型熱感知器 防爆型煙感知器 ① 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
		防爆型熱感知器 防爆型煙感知器 ② 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
		防湿型煙感知器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
火災感知器 (続き)	VI-2-別添 1-2	炎感知器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
					1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. サインビート波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
					1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 (×9.8m/s ²)	判定基準
火災受信機器	VI-2-別添 1-3	火災受信機器 【A】	地震後の電氣的 機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
ガスボンベ設備	VI-2-別添 1-4	ハロンガス消火 設備容器弁 【A】	地震後の動的機 能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。
		ケーブルトレイ 消火設備容器弁 【A】	地震後の動的機 能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を 入力し、応答波形から共振点が□ であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能 が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振後に正常に動 作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
選択弁	VI-2-別添 1-5	選択弁 【A】	地震後の動的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
制御盤	VI-2-別添 1-6	制御盤 【B】	地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振後に正常に動作すること。
循環水系隔離システム	VI-2-別添 2-4	電極式水位検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

設備	記載箇所	評価部位 【加振試験 No.*1】	要求機能	加振方向	試験内容*2	機能確認済 加速度*2,*3 ($\times 9.8m/s^2$)	判定基準
タービン補機冷却海水系隔離システム	VI-2-別添 2-5	電極式水位検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 □における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。
		電極式水位検出器 【A】	地震時及び地震後の電氣的機能	水平単独 2 方向 及び鉛直単独	1. 共振点検索試験 □の振動数領域を含む正弦波を入力し、応答波形から共振点が□であることを確認。 2. 正弦波加振試験 水平□, 鉛直□における加振試験を行い、機能が維持されることを確認。	水平： □ 鉛直： □	加振中及び加振後に正常に動作すること。

注記*1：加振試験 No は、表 3-1 の No との紐づけを示す。

*2：記載の数値については、加振試験報告書の記録に基づいている。

*3：機能確認済加速度が異なる器具が取り付いている盤については、各器具の水平と鉛直の最小値を盤の機能確認済加速度として用いることから、盤の機能確認済加速度として耐震計算書に記載する数値を下線にて示す。

*4：加振試験に適用した加速度及び模擬地震波の適切性について添付-1 に示す。

3. 機能維持加速度の設定について

機能維持評価に用いる機能維持評価用加速度は、機能維持評価を要する器具を取り付ける支持構造物（盤、計装ラック、スタンション等）の構造と、加振試験の体系を踏まえ、以下の表 3-1 の考えに基づき設定する。

表3-1 機能維持評価用加速度の設定について

No	支持構造物の設計	支持構造物の加振試験有無	機能維持評価用加速度	機能確認済加速度	図解番号	具体例
A	支持構造物が剛な設備	無	1.0ZPA（設置床の最大応答加速度）	器具単体の加振試験により確認した加速度	図 3-1	使用済燃料プール監視カメラ等
B	支持構造物が剛な設備	有	1.0ZPA（設置床の最大応答加速度）	支持構造物を含めた加振試験により確認した加速度	図 3-2	パワーセンタ（非常用）等
C	支持構造物が柔な設備	有	器具の取付位置に生じる応答加速度	器具単体の加振試験により確認した加速度	図 3-3	衛星電話設備（固定型）等

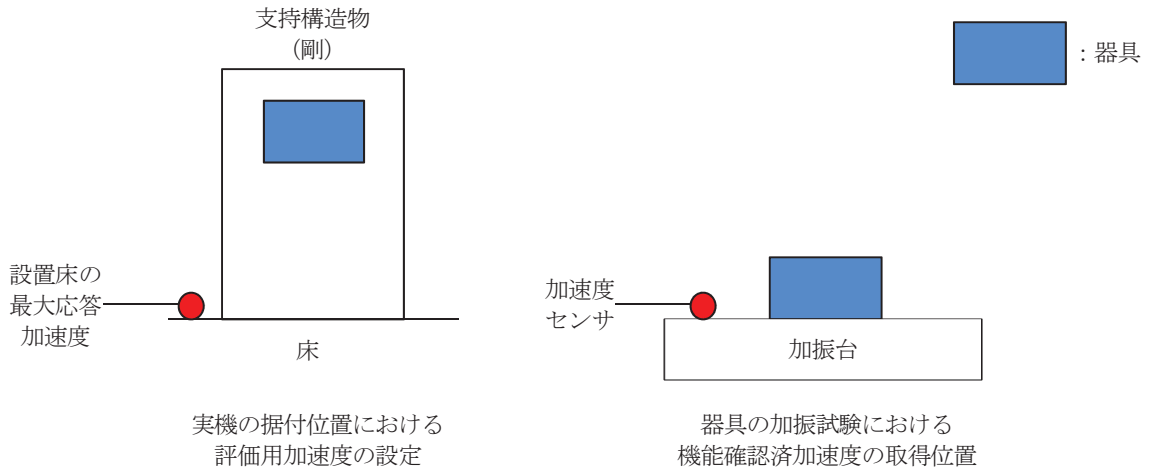


図 3-1 支持構造物が剛な設備かつ器具単体の加振試験を実施した場合

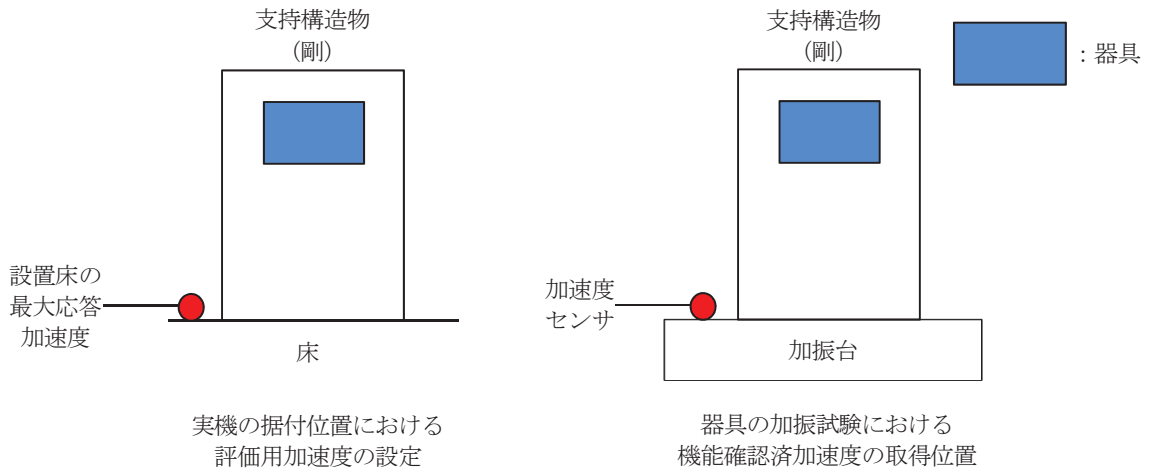


図 3-2 支持構造物が剛な設備かつ支持構造物を含めた加振試験を実施した場合

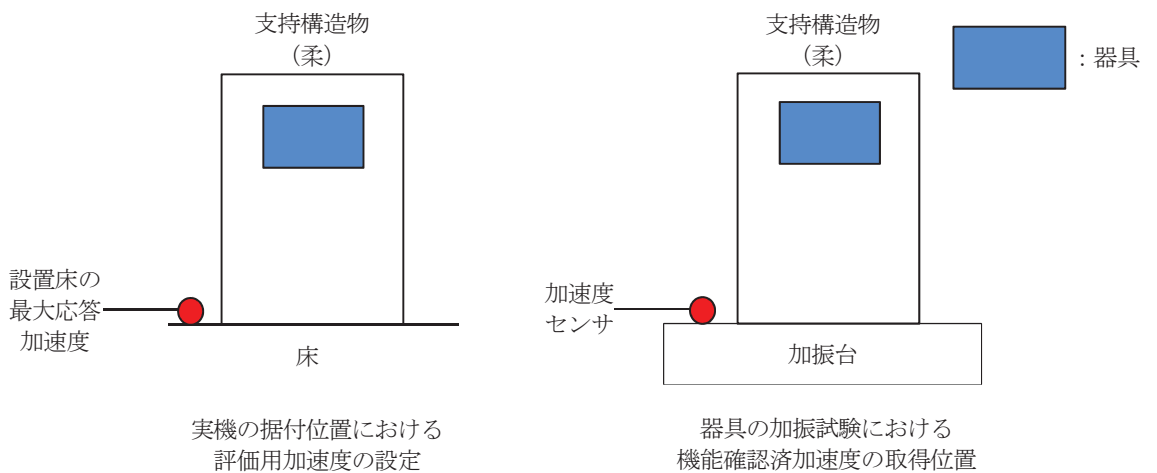


図 3-3 支持構造物が柔な設備かつ支持構造物を含めた加振試験を実施した場合

パワーセンタ、モータコントロールセンタ及び電源切替盤の模擬地震波について

1. 概要

本資料は、2. 加振試験の概要に示す設備の内、パワーセンタ、モータコントロールセンタ及び電源切替盤について、加振試験に適用した加速度及び模擬地震波の適切性について、補足するものである。

2. 設計用地震動

2.1 パワーセンタ

パワーセンタは、原子炉建屋地下1階、1階及び2階並びに制御建屋地下2階及び地下1階に設置している。パワーセンタの設計に適用する設計用最大応答加速度（以下「設計用ZPA」という。）及び設計用床応答曲線（以下「設計用FRS」という。）については、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示すとおりである。

2.2 モータコントロールセンタ

モータコントロールセンタは、原子炉建屋地下1階、1階及び2階、制御建屋地下2階及び地下1階、緊急用電気品建屋地下1階並びに緊急時対策所建屋1階に設置している。モータコントロールセンタの設計に適用する設計用ZPA及び設計用FRSについては、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示すとおりである。

2.3 電源切替盤

電源切替盤は、原子炉建屋1階及び2階に設置している。電源切替盤の設計に適用する設計用ZPA及び設計用FRSについては、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示すとおりである。

3. 減衰定数

試験時に振動台で計測された加速度（以下「試験時ZPA」という。）及び床応答曲線（以下「試験時FRS」という。）が設計用ZPA及び設計用FRSを上回っていることを確認するが、パワーセンタ、モータコントロールセンタ及び電源切替盤のFRSを作成する際に用いる減衰定数については、添付書類「VI-2-1-6 機能維持の基本方針」に基づき、水平方向4%及び鉛直方向1%とする。

4. 試験の加速度及び床応答曲線の設計条件の包絡性

パワーセンタ、モータコントロールセンタ及び電源切替盤の耐震評価においては、大型設備を搭載可能な能力を有した清水建設（株）先端地震防災研究棟の3次元振動台（以下「振動台」という。）を用いることにより、加振試験にて評価している。振動台の仕様を表4-1に示す。

同振動台を使用して、各設備の固有振動数を確認した結果を表4-2に示す。いずれの盤も設計どおり20Hzを上回っており剛な設備であることを確認した。

試験時ZPA及び試験時FRSと設計用ZPA及び設計用FRSの比較を、表4-3と図4-1～4-6に示す。パワーセンタ、モータコントロールセンタ及び電源切替盤のいずれにおいても、試験時ZPA及び試験時FRSが水平方向、鉛直方向ともに設計用ZPA及び設計用FRSを上回っていることを確認した。

表4-1 加振台の仕様

加振台の大きさ		7000mm×7000mm
最大搭載重量		70ton
最大加速度	水平	3.7m/s ²
	鉛直	4.2m/s ²

表4-2 固有振動数の確認結果

設備	固有振動数 (Hz)
パワーセンタ	<input type="text"/>
モータコントロールセンタ	<input type="text"/>
電源切替盤	<input type="text"/>

表4-3 試験時ZPAと設計用ZPAの比較

設備	ZPA (×9.8m/s ²)	
	試験時	設計用
パワーセンタ	水平方向： <input type="text"/> 鉛直方向： <input type="text"/>	水平方向：1.77 鉛直方向：1.30
モータコントロールセンタ	水平方向： <input type="text"/> 鉛直方向： <input type="text"/>	水平方向：1.77 鉛直方向：1.30
電源切替盤	水平方向： <input type="text"/> 鉛直方向： <input type="text"/>	水平方向：1.77 鉛直方向：1.30

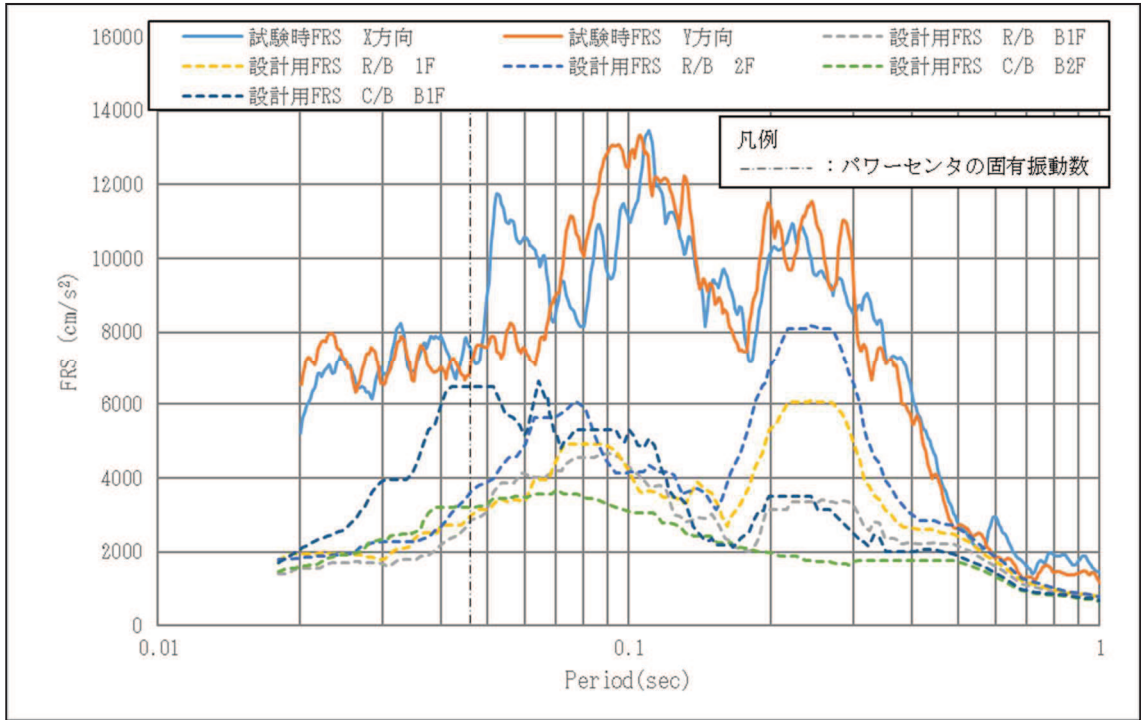


図 4-1 試験時 FRS と設計用 FRS との比較 水平方向 (パワーセンタ)

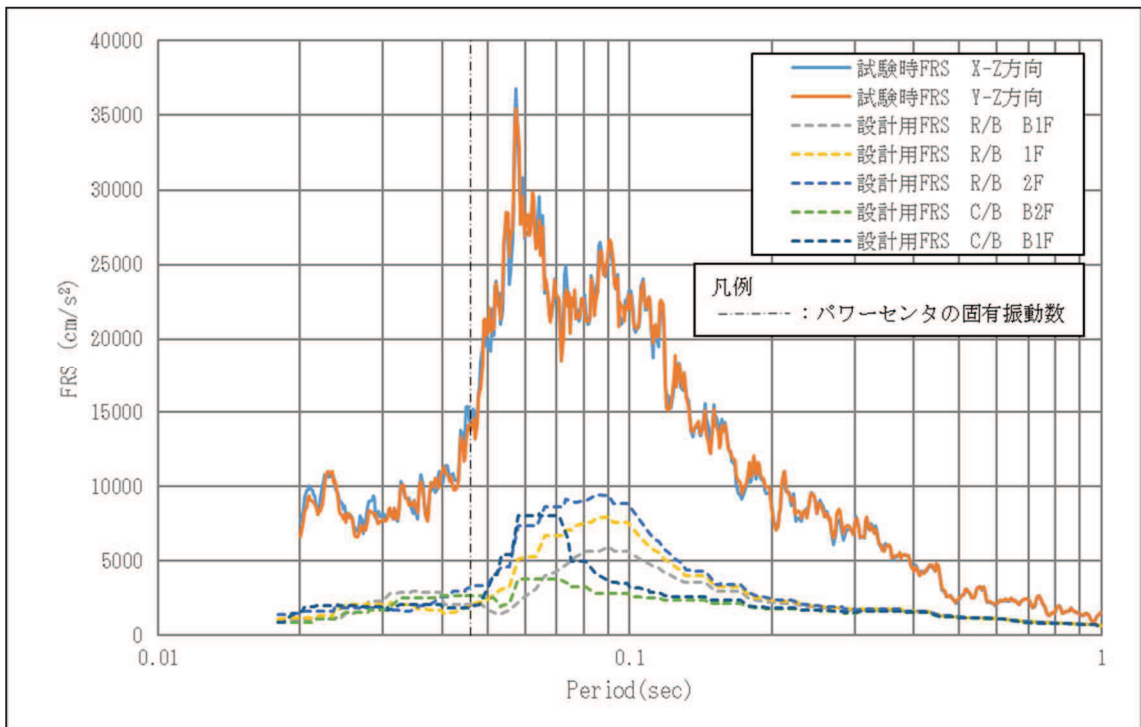


図 4-2 試験時 FRS と設計用 FRS との比較 鉛直方向 (パワーセンタ)

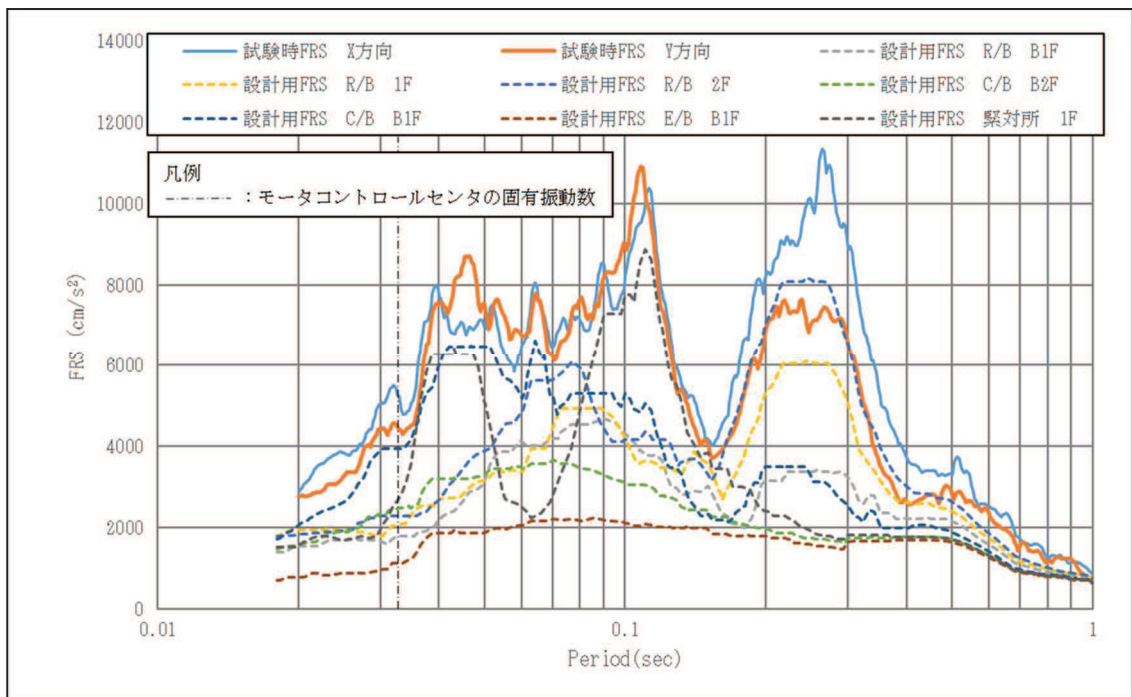


図 4-3 試験時 FRS と設計用 FRS との比較 水平方向 (モータコントロールセンタ)

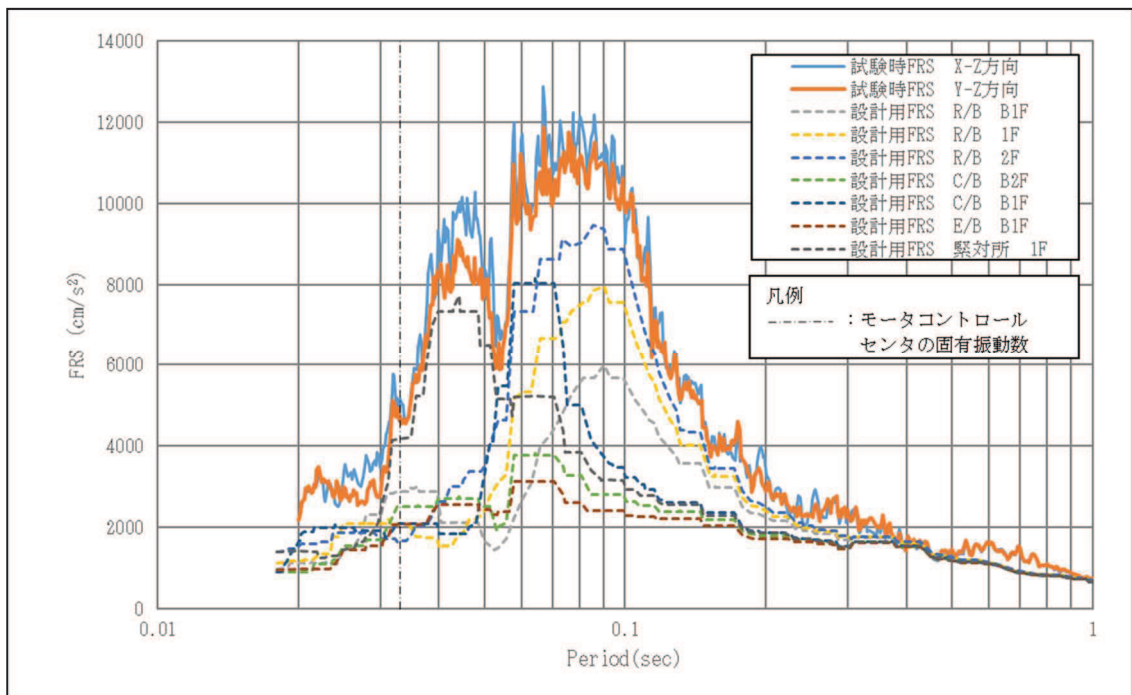


図 4-4 試験時 FRS と設計用 FRS との比較 鉛直方向 (モータコントロールセンタ)

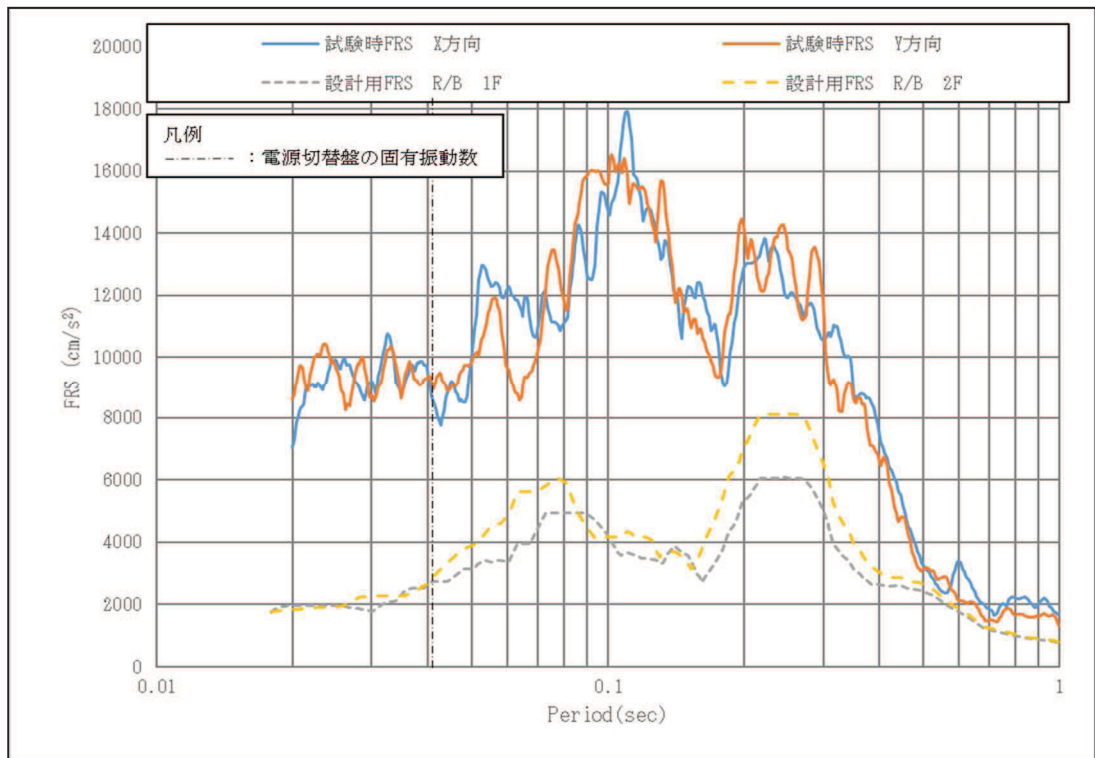


図 4-5 試験時 FRS と設計用 FRS との比較 水平方向（電源切替盤）

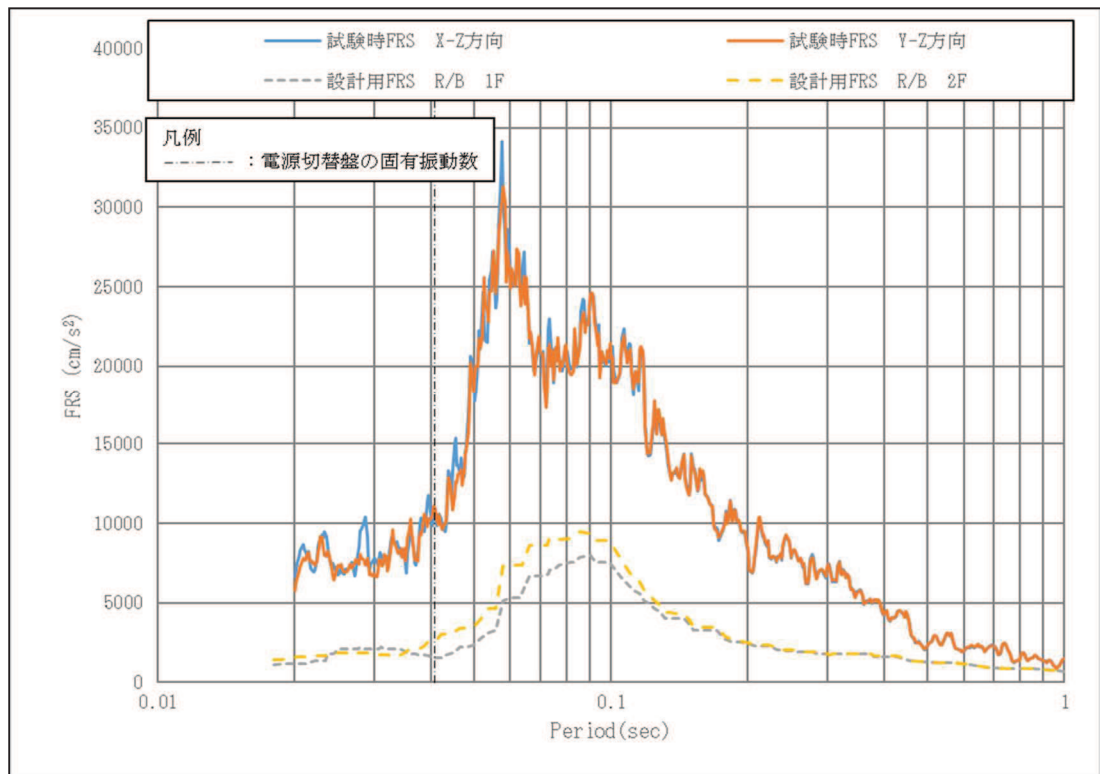


図 4-6 試験時 FRS と設計用 FRS との比較 鉛直方向（電源切替盤）